

# インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) アンキョウカクインダクイカク	フリガナ) ケイカク	フリガナ) マワリ
文京学院大学	経営学部	馬渡ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) カクシン	フリガナ) スカノメ	6	無	
革新班	菅野結女			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

## 研究テーマ (発表タイトル)

ポイ捨て問題に対する意識

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

ポイ捨て問題の深刻さを多くの人々、中でも学生に知ってもらいポイ捨てに対する意識を変える

### 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

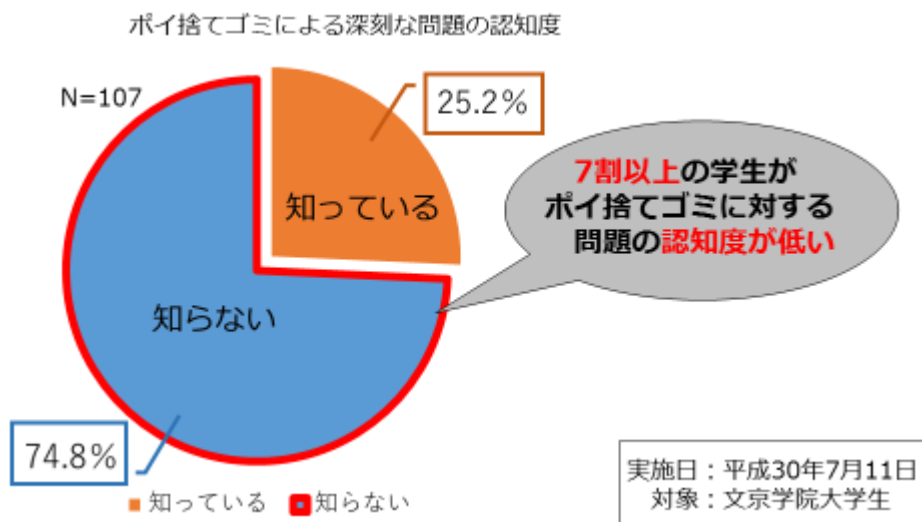
ポイ捨てが原因で海洋汚染などが進んでいる。海に漂うゴミの約 8 割は、街でポイ捨てされたゴミが下水道や川を流れ海にたどり着いたものであり、2050 年には海にいる魚より海に漂うプラスチックゴミの質量が上回ると言われている。その海に漂うゴミを動物が誤飲してしまい、死亡する事故もみられる。

そうしたゴミの流出による問題を重く見た諸国はプラスチックの製造や使用の禁止を進めてはいるが、海に漂うゴミの約 8 割が街でのポイ捨てによるものにも関わらず、ポイ捨て自体の対策が取られていないということが分かった。

ポイ捨ては、海だけでなく街にも、火事や景観の悪化などの被害をもたらすと知った私たちは、自分たちの身の回りに潜むポイ捨てについての分析も進めた。調査のなかで、混雑している場所、人目につかない隅、すでにポイ捨てされている場所に重ねてポイ捨てが多いのではないかと考えた。環境保全やまちづくりを手掛ける NPO 法人もう一つのプロジェクトの市川真也様にお話を伺っ

たところ、街中にゴミ箱が少ないという環境要因や人混みで個々の注意力が欠けるという心理要因によって、ポイ捨てが起こることが分かった。

また、調査を進めるうちにポイ捨てに関するデータが少ないと感じ、環境問題の解決に取り組んでいる、株式会社ピリカの小畠不二夫様に伺ったところ、実際にポイ捨て問題は深刻化しているのにも関わらず、データは少なく問題が可視化されていないということが分かった。そこから私たちは、問題が可視化されていないことにより深刻化していても伝わりづらいのではないかと考えた。そこで私たちにとって身近な大学生にポイ捨て問題の深刻さについてアンケート調査したところ、7割以上の学生が深刻な問題を認知していないことが分かった。



### 3. 研究テーマの課題

現状分析を通して私たちの考える本研究テーマの課題は

- ・ポイ捨てが様々な被害を起こしていて 自分たちにも被害が迫っている
- ・データが少ないため深刻さも伝わりづらく認知されていない

以上の2点である。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

課題を解決するためには、ポイ捨てに対する意識を変えて、ポイ捨てが引き起こす問題に目を向けてもらう事である。また、これからの社会を担っていく存在であり、身近な世代である大学生をターゲットにし、若い世代からポイ捨て問題について考えてもらうことで、長期的にポイ捨てへの取り組みに関心を持って貰うことを狙いとし、大学生向けのゴミ拾いイベント「集活プロジェクト」を提案する。このプロジェクトは、間接的にポイ捨て問題の深刻さを伝えるために、就活を考え始める大学生に情報交換やアドバイスの場を提供して、ゴミを集めながら、情報も集めることができるイベントにする。



### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

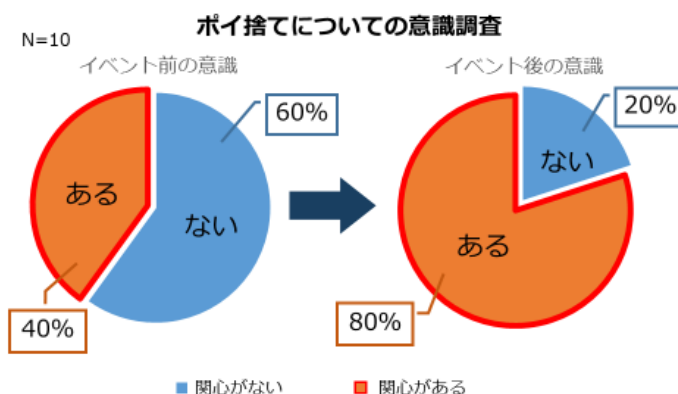
イベント開催にあたり、NPO 法人海さくら様や NPO 法人もう一つのプロジェクト様にゴミ拾いイベント開催の基礎を教えて頂き

基盤を固め、大学生目線のイベントにするために学生の意見を聞き、学生が参加しやすいイベントかつポイ捨て問題への認識を深めて貰えるイベントを目指した。

イベントの行程は、①PPT 資料を用いてポイ捨て問題について説明し、社会人と学生を組み合わせたグループでポイ捨てが引き起こす問題について話し合う、②実際に街に出てゴミを拾いながら、改めてポイ捨てに対して思ったことを意見交換し、学生が社会人に就活についてのアドバイスを聞く、③ゴミ拾い後に、活動を通して実際にポイ捨てに対して意識は変わったのかアンケートを実施し、④最後にレセプションを開催し、自由に社会人と学生が情報交換をするという 4 つのステップで行った。①②の学生と社会人が交流する場では、スタッフを配置し、より充実した時間にできるよう、話し合いのテーマ提供や進行をするように心がけた。

## 6. 結果や今後の取り組み

イベントの結果として、参加者にイベント前後でのポイ捨てに対する関心度調査を行った。結果、イベント前は関心度が 40%しかなかったが、イベント後には 80%まで上がった。



また、イベント参加者の声として、ポイ捨てゴミについての関心や意識が高まったなど前向きな意見をいただいたが、改善点としてもう一捻りあるとさらに面白い活動になり、それぞれの意識が変わっていくなどのアドバイスを頂いた。

これを踏まえ、イベント開催から見た次のステップは、①ポイ捨てに対する関心を忘れないようにイベントを繰り返す、②企業に当プロジェクトを提供し、企業の CSR に貢献する、③海外に展開する可能性を探るという 3 つである。現在は当プロジェクトを次のステップに繋げていく為に、まず実現可能性を探っている。

私たちの次のステップである①について、あるグローバル企業の広報担当の方にお話しさせて頂いたところ、CSR 領域において「ポイ捨て」という身近なテーマで環境を考え、社会貢献をすることに新鮮さを感じたというお言葉を頂いた。

また、②について中国人大学生の皆様にお聞きしたところ、ポイ捨てはよくないと思う。政府も宣伝してはいるが、成果にも限りがあるのでこのようなイベントには興味がある。参加したい。という意見であることが分かった。

今後、5月にイベント開催を予定し、企業や大学生さらには留学生へのアプローチを含め行っていく。

## 7. 参考文献

- 株式会社ピリカ <http://corp.pirika.org/> (閲覧日：2018年4月23日)
- NPO 法人もうひとつのプロジェクト <http://another-project.com/> (閲覧日：2018年1月25日)
- 文京区公式ホームページ <http://www.city.bunkyo.lg.jp/> (閲覧日：2018年5月18日)
- 我が国の人口移動の現状と集計・公表の拡充 ニーズに対する総務省統計局の取り組み 2015年6月7日・総務省統計局 西千奈美 <http://www.stat.go.jp/training/2kenkyu/pdf/gakkai/jinko/2015/tnishi.pdf> (閲覧日：2018年1月25日)
- ゴミのポイ捨てに対する監視カメラ・先行ゴミ・景観・看板の効果 [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpsy/87/3/87\\_87.14057/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpsy/87/3/87_87.14057/_pdf) 心理学研究 2016年第87巻 第3号 仲俣友子 阿部恒之 2016年1月23日 (閲覧日：2018年1月23日)
- 東京オリンピック会場予定地におけるポイ捨てにおける深刻度調査 <http://tokyo2020.pirika.org/> NPO 法人もうひとつのプロジェクト・NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド・ガムクリーンカンパニー株式会社・株式会社ピリカ (閲覧日：2018年1月25日)
- 現場から、海を殺すプラスチック汚染 [http://news.tbs.co.jp/newsi\\_sp/osen/index.html](http://news.tbs.co.jp/newsi_sp/osen/index.html) 2018年3月26日

(閲覧日：2018年6月12日)

・NPO 法人海さくら <https://umisakura.com> (閲覧日：2018年6月12日)

・清楚に保つゴミ分別に感心＝交換留学生・李尚臻

<https://mainichi.jp/articles/20180724/ddm/005/070/010000c> 毎日新聞 2018年7月24日 (閲覧日：2018年7月31日)

・平成26年の海洋汚染の現状について [www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/h27/k20150318/k150318-1.pdf](http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/h27/k20150318/k150318-1.pdf)  
海上保安庁 2015年3月18日 (閲覧日：2018年5月8日)

・海洋ゴミマイクロプラスチックに関する環境省の取組 環境省 [www.env.go.jp/water/marine\\_litter/00\\_MOE.pdf](http://www.env.go.jp/water/marine_litter/00_MOE.pdf) 環境省大臣官房審議官 早水輝好 2016年12月10日 (閲覧日：2018年5月8日)

・気象庁 海面浮遊汚染物質観測結果

[www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/pollution/archive/d\\_1/floatpol/result\\_flp.html](http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/pollution/archive/d_1/floatpol/result_flp.html) 2018年4月23日 (閲覧日：2018年5月8日)

・一般社団法人 JEAN [www.jean.jp/m-litter/matter02.html](http://www.jean.jp/m-litter/matter02.html) (閲覧日：2018年6月12日)

・海の漂流ゴミの影響が心配だ <https://r.nikkei.com/article/DGXKZO87212350U5A520C1PE8000?s=3>

日本経済新聞 2015年5月24日 (閲覧日：2018年7月31日)

・海洋ゴミ最も効果的な対策は [https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/news/14/9134/?ST=m\\_news](https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/news/14/9134/?ST=m_news)  
2014年4月14日 (閲覧日：2018年7月31日)

・海洋に漂うプラスチックゴミ、2050年までに魚の量しのご報告 <http://www.afpbb.com/articles/-/3074016> AFB  
BB NEWS (閲覧日：2018年7月31日)

・海を漂うプラスチック 2050年までに魚の量越す見通し <https://www.cnn.co.jp/business/35076480.html>  
CNN2016年1月20日 (閲覧日：2018年7月31日)

・安倍政権・マイクロプラスチック汚染を野放し [https://biz-journal.jp/2018/04/post\\_22964\\_2.html](https://biz-journal.jp/2018/04/post_22964_2.html)

Business Journal 2018年4月11日 (閲覧日：2018年8月3日)

・微小プラスチック汚染を防げ <https://www.bbc.com/japanese/44365588> 日本経済新聞 2018年6月19日 (閲覧日：2018年8月3日)

・代々木公園ポイ捨て最多 五輪会場予定地を調査 日本経済新聞 2016年5月20日

<https://www.nikkei.com/article/DGXKZO02538150Z10C16A5L83000/> (閲覧日 2018年1月25日)

・日本持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針 SDGs 推進本部 2017年3月31日

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000252818.pdf> (閲覧日 8月21日)

#### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**